



# 広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻  
 京都大学医学部人間健康科学科



新入生への救命講習会の様子 (P18 参照)

## 目次

○就任のご挨拶	専攻長 細田 公則… 2	検査技術科学コース (ImPACT)	
○特色入試元年~より多彩な学生たちが集うことを期待して	教務教育委員長 黒木 裕士… 3	特定准教授 山川 誠…15	
○退任等挨拶		検査技術科学コース (ImPACT)	
元看護科学コース	教授 野本 慎一… 5	特定助教 近藤 健悟…16	
元看護科学コース	助教 千葉 陽子… 6	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	
元看護科学コース	助教 志澤 美保… 6	特定准教授 佐藤 弥…16	
元検査技術科学コース	教授 齋藤 邦明… 7	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	
元リハビリテーション科学コース	教授 山根 寛… 8	特定助教 義村 さや香…17	
元近未来型人間健康科学融合ユニット	教授 荒井 秀典… 8	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	
元検査技術科学コース (CKプロジェクト)		特定助教 魚野 翔太…17	
	特定講師 酒井 晃二… 9	○京都大学 平成 27 年度全新入生	
元安寧の都市ユニット	特定准教授 三谷 智子… 9	3000 人への救命講習会の報告 …18	
元安寧の都市ユニット	特定准教授 小山 真紀…10	○第 27 回 (2014 年) 健康科学市民公開講座 ……19	
元安寧の都市ユニット	特定研究員 今村 行雄…10	○2014 年度オープンキャンパス ……20	
元安寧の都市ユニット	特定研究員 村上 由希…11	○人間健康科学系専攻から博士が 6 名誕生しました ……21	
○新任等挨拶		○人間健康科学系専攻・人間健康科学科	
看護科学コース	教授 天谷真奈美…12	平成 27 年度入学試験結果及び	
看護科学コース	講師 西山 知佳…12	平成 26 年度修了・卒業者数 ……25	
看護科学コース	助教 佐藤 隆平…13	○平成 26 年度卒業生の進路調査結果 ……27	
看護科学コース	助教 二宮 早苗…14	○人事異動 ……28	
検査技術科学コース	助教 森瀬 譲二…14	○日誌 ……29	
		○あとがき ……30	



## 就任のご挨拶

専攻長 細田 公則

平成 27 年 4 月 1 日より医学研究科人間健康科学系専攻長に就任しましたので、ご挨拶を申し上げます。

人間健康科学系では高度医療専門職の研究と教育が推進されています。国立大学改革において、日本における京都大学の立ち位置を踏まえて、平成 25 年度に「世界トップレベルの先端医療技術の開発および臨床フィールドにおける実践の追求を通じて、世界レベルの研究を牽引する研究者の養成」のミッションが再定義されています。これは、専門職を含めた人間健康科学において、世界のトップレベルの研究と、研究者の養成を目指すものであります。

グローバルに高齢化社会を含めた社会の変化と、科学技術の進歩は急速でダイナミックであり、医療は急速に変化しています。そのような医療の変化に対応して、独創的な新規の分野を創出する研究と、研究者の養成が必要であります。京都大学においては、自由の学風を基本理念として、医学研究科、医学部附属病院を始めとして、多くの部局において世界をリードする独創的な研究が行われています。人間健康科学系が、専門職としての実践的立場や医学部附属病院との連携により臨床的有用性の高い成果を目指して、専門職と非専門職など多コースから成る人間健康科学系全体での融合を活かした、医学研究科や医学部附属病院を含めて京都大学の他部局との共同研究での最新の科学技術の進歩の活用により、世界トップレベルの研究と、研究者を養成することが期待されます。

以上の観点から微力ですが、人間健康科学系専攻長としての責務を果たしていく所存です。人間健康科学系の皆さまには、これまで以上のご助言、ご支援、ご協力を心から御願ひ申し上げます。

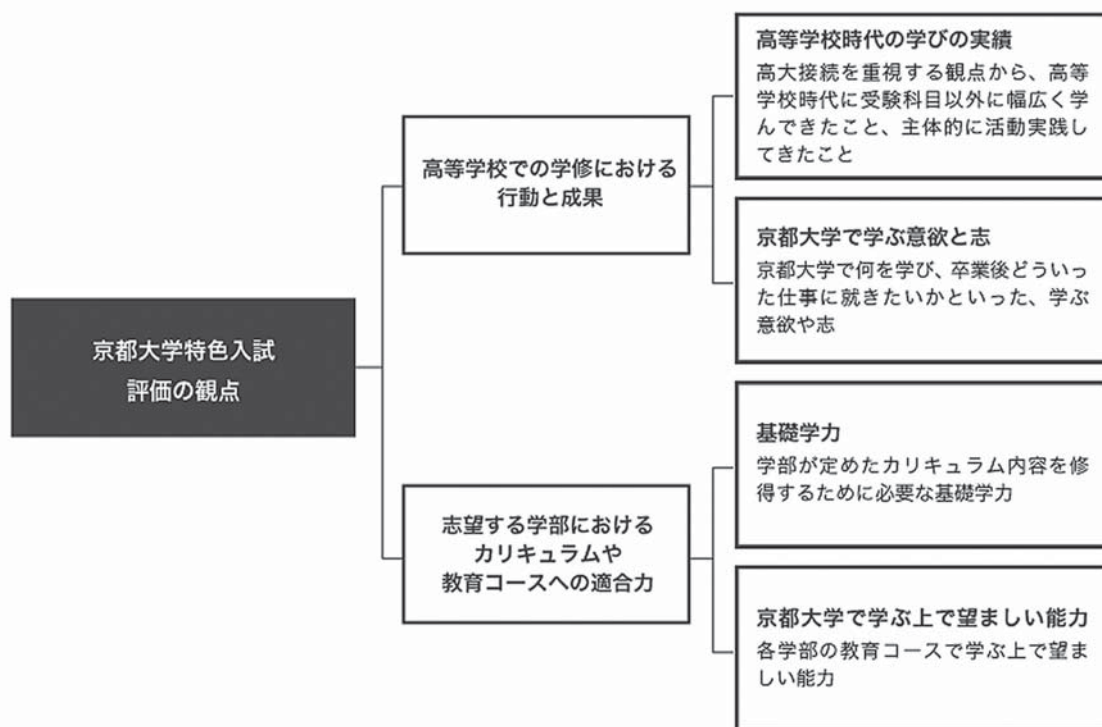


## 特色入試元年～より多彩な学生たちが集うことを期待して

医学部人間健康科学科・教務教育委員長 黒木 裕士

平成 29 年度より、本学科も組織改革が行われることがほぼ決定しており、従来の看護学・検査技術科学・理学療法学・作業療法学の枠組みが変わるような大きな変革が起ころうとしています。その内容については細田専攻長の文章に譲りますが、それよりも 1 年早く、平成 28 年度の入学者から、特色入試が始まります。これは、2 年ほど前から京都大学全学をあげて、これまでにない方法で新しいタイプの学生に京都大学に入学してもらうために考えられてきたことで、各学部により様々な入試方法が検討されてきました。理学部の「数学 4 時間 1 本勝負」などもよい例ですが、本学科でもこの特色入試に参加すべく検討を重ね、小論文と面接による入試方法を決定し、この平成 27 年秋に初めての特色入試を行うこととなりました。その概要についてご説明申し上げます。

今回の対象は、現役の高校 3 年生で、看護学、理学療法学、作業療法学に強い関心があることがまず第一の条件になります。検査技術科学専攻は募集を行いません（注 1）。募集人数は、看護学専攻が 10 名以内、理学療法学専攻 3 名以内、作業療法学専攻 3 名以内、となっております。「以内」というのは、相応しい学生がいなければ、その分の定員は一般入試に回る、ということです。高校 2 年生までの学業成績平均評定 4.3 以上で、学校長の推薦がいただけそうなら、願書を出していただくことになります。「学業活動報告書」「学びの設計書」を作成していただき、10 月 5 日～9 日の間に提出となります。その後、厳正な書類選考を行い、定員の 3～5 倍程度を 1 次合格者として 10 月 30 日に発表し、11 月 14 日～15 日の二次試験に来ていただきます。二次試験では 1 日目に小論文を、2 日目に面接を行います。小論文と面接による再度の厳正なる採点の結果、12 月 15 日に 2 次合格者を発表します。この合格者の皆さんには、センター試験を受験して頂き、8 割の得点（注 2）で自動的に最終合格になります。最終の合格発表は 2 月 10 日、一般入試の 2 週間前に合格者が確定します。



今回の特色入試の「特色」は、「1 番」であることです。まず、日本で保健・健康系の学科を持ついくつかの国立大学では今回のような AO 型入試が行われていますが、本学の「11 月 14 日」という試験日は、日本で一番早い試験日です。入試の時期が早いということは、センター試験、二次試験への影響を減らすことができますので、腕試しという学生を含めて幅広く出願いただけるのではないかと考えております。現在、本学科における近畿出身者の比率は 58.9% でありますので、今回の特色入試で優秀な学生を全国から集めたいと考えております。

もう一つの「1番」は京都大学での「1番」です。今回の特色入試は、各学部が独自に入試日程を決めており、様々な制約のもと入試日程を統一化する動きもありましたが、本学科は「国内で1番最初に入試を行いたい」という強い意志のもと日程を当初の設定から譲りませんでした。その結果、全学でも1番早く特色入試を実施することになりました。もしかしたら、テレビニュース等で、「今年から、京都大学でも特色入試が行われることになりました」というような内容で本学科の入試風景が映し出され、皆さんもご存知の先生方が試験監督をしている勇姿(?)が全国に流れるかもしれません。

本学科は、医療系の国家資格をベースに、国際的視野を兼ね備えた医療専門職のリーダーや、研究者の養成を推進しようとしています。そのために、多面的でバランスの良い思考ができることが求められています。求める人材として、

- ・学問に対する探究心と人間に対する深い洞察力を持った人
- ・理系だけでなく人文科学系も含めた幅広い教養を指向する人
- ・従来の健康へのアプローチに創造的、批判的に対峙できる人

をあげています(注3)。以上のような資質を持ち合わせた学生を選抜するために、従来入試では測れない学生の能力を測ろうと、現在、学科内の委員により出題が練られているところです。今回の特色入試で、個性的で熱意ある学生が入学し、本学科をより活性化していくことを教務教育委員長としても強く期待するものです。それには、まず志願者が必要です。周囲に優秀な高校3年生がいらっしゃいましたら、まずは願書を提出していただくようにご指導ください。皆様の協力をよろしくお願い申し上げます。

\*詳細は特色入試ウェブサイト

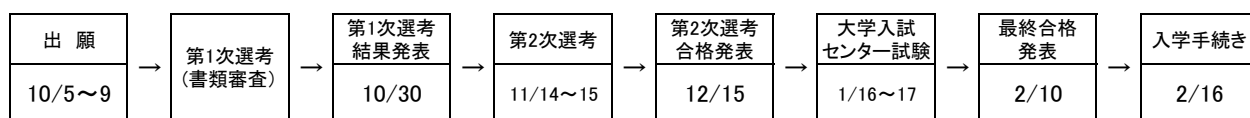
<http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/> をご覧ください。

注1) 検査技術科学専攻では、特色入試を行わない代わりに、一般入試の配点を変更している。

注2) 英語ヒアリング50点を含む950点満点中760点。

注3) 入試要項より抜粋。

#### 平成28年度特色入試の日程





## 退任のご挨拶

### —残りの人生も「忘己利他」—

元看護科学コース 教授 野本 慎一

手術中の1針が患者の命を左右する心臓血管外科という臨床の最前線を離れ、自ら「ベッドサイドから研究へ」といいながら臨床とは離れた新たな研究テーマを模索して、8年9ヶ月という長いようで短かった教授職をこの3月末に定年退職しました。在職中は公私にわたり格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

平成18年の就任当時は、医療技術短期大学から4年制の医学部保健学科に変わったばかりでしたが、さらに翌年には人間健康科学科に名称変更されると共に修士課程が設置されました。建物の耐震改修が同時期に行われ、講義場所は京大病院講堂のみならず、向かいにある京都教育文化センターや芝蘭会館などを転々とし、会議に至っては薬学部の教室をお借りするという状況でした。建物解体の騒音と粉塵の中で、教授の先生方も大部屋に机を並べる職員室状態は、新入りの私にとっては先生方と密に接する貴重な機会でした。

その頃高校時代の親友と久しぶりに再会した際、彼の上司である杉浦広一、昭子両氏の地域医療に貢献したいという篤い思いを聞き及びました。その思いが、スギ薬局本社や大学当局と頻繁に折衝を繰り返していく中で平成21年竣工の「杉浦地域医療研究センター」に結実しました。本来なら契約締結後すぐに着工される予定でしたが、時を同じくして新たに施行された京都市景観条例の規制を受け、設計変更や再申請手続きに時間要しているうちにリーマンショックが訪れ、ご寄付いただいた両氏に多大なご迷惑をおかけすることになりました。しかしながら、杉浦両氏の「建てるならいいものを」という趣旨に甘え、杉浦ホールに最新鋭のAV設備を設置することができ、後に皆様方から好評を博したことは、わがままを通した本人として喜ばしい限りです。このセンターが人間健康科学系専攻のみならず、他の部局からの利用もますます増え、今や「スギウラ」という通称で通るようになりました。

このセンターを利用する形で、工学研究科都市社会工学専攻と人間健康科学系専攻が協働して人材育成を行う「安寧の都市ユニット」が立ち上がりました。健康科学と都市工学が結びついて超高齢社会に打ち克つ新しいまちづくりを目指して、自治体職員や大学院生の履修生と共に研究するという貴重な機会を得ました。副ユニット長として全国から特色ある講師をお招きするセミナーを企画できたのも、まことに得がたい経験でした。

時代が病院医療から在宅中心の医療へというパラダイムシフトを迎えている中で、Patient-centricity という概念を持ち情報通信技術を活用した「在宅医療・介護情報共有システム（電子連絡ノート）」を在職中に開発できたのも、ユニットで得られた新しい人材交流によるものだと思っております。療養者と医療介護職の心をつなぐシステムとして、在宅医療のみならず先進医療にも応用できることがわかり、今後更にシステムの発展および社会実装に向けて取り組んで参りたいと考えております。

稿を終える前に、本学学生のすばらしさについて一言申し述べたいと思います。専攻内のみならず幅広く全学共通課目を担当させていただいた中で、学生に毎回書いてもらうレポートは私にとっては次なる講義へのビタミン剤となったと同時に、あの短時間の間にしっかり自分の考えを書き終える能力は、さすが京大生であるといつも感心していました。しかし、そういう機会が定年とともになくなることに一抹の寂しさを覚えます。

4月より滋賀県立リハビリテーションセンター所長として赴任しました。残りの人生を「モウ懲リタ」ではなく、中学時代の恩師からいただいた「忘己利他(もうこりた)之大慈悲心也」の精神を忘れず全力を尽くして参りたいと思っております。

新しい入試制度の導入と共に、新しい枠組みの人間健康科学系専攻に変わろうとしており、わが国のリーダーとなる卒業生が数多く輩出されることを大いに期待しております。しばらくは変革の大きな波が続くと思われませんが、新しい人間健康科学の構築を目指して、諸姉諸兄の益々のご活躍とご発展を心より期待します。

## 退職のご挨拶

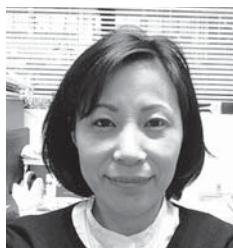
元看護科学コース 助教 千葉 陽子

平成 26 年 12 月末日をもちまして京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職致しましたので、紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

在職期間中には医学部保健学科が立ち上がり、続いて修士課程・博士課程が設立され、京都大学における看護教育の「激動期」を体験させていただきました。これに伴い、助産師教育課程も医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻、学部での助産選択課程、そして高度実践助産学系での大学院教育へと発展を遂げ、様々な課程での教育を体験させていただく機会に恵まれました。また、多くの先生方からのご指導のもと研究者としての第一歩を踏み出すこともでき、心より感謝申し上げます。

平成 27 年 1 月より、滋賀医科大学医学部看護学科で勤務しております。生まれ育った京都と隣県の滋賀、総合大学と単科大学、電車通勤と高速道路を使った車通勤、というように様々な点が異なる中、京都や京都大学の魅力を再発見したり、新天地での出会いや学びに刺激を受けたりしております。今後とも、教員として、また研究者として、多くのことを吸収させていただきたいと思っております。

最後になりましたが、長きに渡りご指導くださいました助産学分野の我部山キヨ子教授、柳吉桂子准教授をはじめ、看護科学コースの先生方、人間健康科学系専攻の先生方および職員の方々に心より感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。また、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 退任のご挨拶

元看護科学コース 助教 志澤 美保

平成 27 年 3 月末日をもって京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻助教を退職いたしました。京都大学には平成 24 年 4 月から赴任し、前任校の名古屋大学での教育実践 3 年間でふまえた上での 2 箇所目の教育現場でした。この京都大学での 3 年間で私ができたことはわずかであったと思いますが、多くのことを学ばせて頂きました。保健師教育については、地域看護学講座の桂先生をはじめ、大倉先生、滝澤先生の豊富な教育経験と知識のもと実施、運営されている教育は、大変刺激を受けることが多く、自分の教育理念を見つめなおすのにとっても影響を受けました。また、学生の思考を導くための関わり方について講義、演習、実習、ゼミなど様々な指導場面において 3 名の先生の傍で共に関わらせて頂き、大変勉強させて頂きました。学生との対話では、職能上、保健師にはコミュニケーション能力は必須であり、対人サービスを行う上での相手を理解する力や思考、判断を養うにはどうしたらいいのか、会議や打合せで語り合ったのを思い出します。京都大学ならではの特徴もあったかと思いますが、現代の若者には共通の課題であり、看護教育の中でどのように引き出し、伸ばしていくか、今後も考えていかなければならない上で、多くのことを学ばせて頂きました。本当にありがとうございました。研究者としては、学部、大学院の学生の研究指導に携わりながら自分の研究の基盤づくりをした 3 年間でした。看護学の先生方だけでなく、人間健康科学系内の他の領域の先生、工学系や心理学系の先生とも知り合う機会に恵まれ、今後の研究の上での関係づくりができました。これも総合大学として第一線の研究機関である京都大学だからこそではないかと感じています。まだまだ研究者としては未熟なところが多々あるのですが、この経験を無駄にしないよう次につなげていければと思っております。また、仕事の上では、総務や教務の事務の方々にも多大なサポートを頂きました。なかなか事務手続きが覚えられない私を根気強く、やさしく支えてくださり、本当にありがとうございました。

この 4 月からは、鴨川を挟んで西側の京都府立医科大学に赴任いたしました。4 月からの毎日は、日々の講義や学

生指導についつい忙殺されてしまい、上述したような研究の継続を忘れてしまいそうになってしまいます。川向こうの京都大学を眺めては、研究もしなければと思ひだし、今後も良質の教育と先端の研究目指して邁進していきたいと思っております。皆さまにはこれからもご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、京都大学の皆さまの益々のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 退任のご挨拶

元検査技術科学コース 教授 齋藤 邦明

私は、3月末でお世話になった京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職しましたので皆様にご挨拶させていただきます。

私が京大に着任したのは平成19年で、米国国立衛生研究所、岐阜大学大学院医学系研究科准教授を経て人間健康科学検査技術科学コース教授を拜命してお世話になりました。この間、有能な教室のスタッフと大学院生と出会い、先制診断に関係する研究と私のライフワークであるアミノ酸代謝と免疫に関する研究に邁進してきました。教室の研究内容が関西イノベーション国際戦略総合特区事業に認定され、多くの企業の方とも共同研究できたことは望外の幸せであり、自由な発想で共同研究させていただきました。改めて感謝申し上げます。また、教室を巣立った卒業生が、大学で教育職、企業の研究機関、医療機関などで活躍してくれているのは嬉しい限りであり、私の宝物です。

近年では、個の健康・医療を実現するために、疾患の階層化、予後予測、発症予測、薬効・副作用予測を可能とする診断薬開発が望まれています。また、網羅的高感度分析技術のさらなる発展も期待され、例えば低分子のバイオマーカーの網羅的測定も可能となり、短時間に膨大なデータを取得して解析する時代が到来しており、ビッグデータ解析も視野に入れなければなりません。私は若い有能な研究者の卵に次のことを伝えています。研究で重要なのは創造力であり、研究者の最低条件として、優れた研究デザイン（アイデア）と英文論文の執筆による情報発信は必須です。また、高額なハイテクを駆使した先端機器がないと研究できないと勘違いしている若者がいますが、ローテクを駆使できる能力を有して研究することも重要です。もちろん、世界トップレベルの研究が出来るように、どこでどのような研究が行われているのかを常にウォッチすることも重要です。オンリーワンを目指した研究ができるように日々努力する事だと思っています。

さて、昨年からは検査技術科学のコース長として微力ながらマネージにも少し携わらせていただきました。慣例では2年間努めねばならないところ、1年で退職する事になり同僚の先生に迷惑をかける事になり心苦しい限りです。仲間の先生と沢山の時間を過ごす中で私自身時に喜び時に悲しみ、考え行動することで人間として成長させて頂くことができましたように思います。特に耐震改修で同室にて過ごした良き仲間とは、機会のある度にポジティブな思考で意見交換でき、この8年間多くの先生と本学の人間健康科学系専攻が有能な医療スタッフと研究者育成の日本モデルとなるように頑張ってきました。この度、私の地元に戻ることを決断し、藤田保健衛生大学大学院保健学研究科副研究科長としてもうしばらくの間医療科学イノベーション領域を中心に研究・教育に携わらせていただきたいと思います。これからもより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、人間健康科学系のますますの発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ略儀ながら退職のご挨拶とさせていただきます。

## 新たな始まりにむけて

元リハビリテーション科学コース教授 山根 寛

昭和天皇崩御により年号が平成に変わった年の12月に赴任し、京都大学で作業療法学専攻に籍を置き、臨床研究と教育、研究指導、そして学会活動を行い、この3月末に定年退官になりました。気がつけば26年が過ぎていました。

赴任した当時はまだ短期大学部で、健康科学をテーマに、健康とその諸問題との人間学的研究を行う学内研究プロジェクト「健康人間学」が結成され、専攻を超えた検討がなされていました。それは、感染症の克服に始まり、近代医学の進歩が、臓器移植、再生、遺伝子治療など人智を越えた領域にまで広がったことにより、新たに生まれた課題への模索から生まれたものでした。(治療医学により) 贈られた命とは何か、命が長らえればいいのか、人間にとっての幸福とは何か、近代医学がその効率のために置き去りにした、「命の、生活の、一人ひとりの人生の質と時間」という問題に取り組むことこそが、co-medical staff という和製英語でよばれ、あいまいにひとまとめにされた医療従事者の教育・研究の本質という認識から、短期大学部を、4年制の健康科学部に発展させようという夢と期待の基に始まった新しい学問の胎動であったといえます。

あれから四半世紀、短期大学部は4年制になり、人間健康科学系専攻として大学院が開設され後期課程も整備されました。この間、ひとの入れ替わりもありましたが、京都大学を取り巻く世界も京都大学の中もずいぶんと変わりました。良くも悪くも、学生気質だけでなく教員気質も大きく変わっています。専門分化することで進化(深化?)してきたそれぞれの学問領域の多くは、成熟から崩壊の道をたどり始めています。あらたな統合に向けて明確な予測がつきにくい現状ですが、可能性の場、「知性が生まれる子宮」のような場をもう一度京都大学に取り戻すことが必要と感じるのは私だけではないと思います。専門分化し成熟を終えた知の境界を超えて、思考と試行の場を保障するのが大学です。

退官後は、これまでの知と技を広く地域社会にお返しし、臨床の質を高める仕事をと、新たな就職先を求めず、「ひとと作業・生活」研究会を立ち上げ、活動を開始しました。大学の改革という課題の中で、知の資産が埋もれていくことがないように、「知性が生まれる子宮」のような場所として京都大学はあり続けてほしいと願っています。



## 退職のご挨拶

元近未来型人間健康科学融合ユニット 教授 荒井 秀典

平成26年12月31日を持ちまして京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退任し、平成27年1月1日より国立研究開発法人国立長寿医療研究センター副院長として着任いたしました。4月1日より老年学・社会科学研究センター長も兼任しております。約6年間の人間健康科学系専攻在職中は多くの方々大変お世話になりました。誌上をお借りして関係各位に深くお礼を申し上げます。

平成21年4月に京都大学医学部附属病院から人間健康科学系専攻に異動してから、看護師、検査技師、理学療法士、作業療法士の教育に携わり、多くの優れた学部生、大学院生、教員との出会いに恵まれました。近未来型人間健康科学融合ユニットという働き場所を与えていただき、自分の研究分野である高齢者医療に関して、看護、検査技術、リハビリテーションの研究融合を目指して、研究を進めさせていただきました。着任後はこのことを常に念頭に置きながら、研究を行ってきました。その結果、研究の方向性も大きく変わり、サルコペニア、フレイル、介護予防といった近年の老年医学のホットなテーマについて多くの成果をあげることができました。これは、京都大学という素晴らしい研究環境によるものと感謝しております。

今後も京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の皆様には大変お世話になるかと存じます。引き続きご指導



ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 退任に際してーさらに苔生す転石を目指してー

元CKプロジェクト 特定講師 酒井 晃二

私は、2010年10月1日付で検査科学技術専攻情報理工医療学講座にCKプロジェクト（Canonと京都大学による医工連携研究テクノハブプロジェクト）特定助教として着任し、その後、2011年10月に特定講師、2014年12月31日付で退任いたしました。着任直後は、それまでとのカルチャーとの違いなどもあり、杉本直三教授をはじめとする関係諸氏の皆様には迷惑をかけ、さまざまご指導を賜りました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

御研究科は私にとりまして6か所めの職場でした。大学院を卒業して職業を得てから6回異動（3回の転職）してきたこととなります。これまでに、化学薬物を製造販売する企業、地方公務員として3か所、大学教員として3か所目というような転がり方をして参りました。企業では、タイヤ用老化防止剤の開発を行って参りました。その後、ご縁をいただき岩手県の研究機関を3か所回り、御研究科の前任地として、京都大学高等教育研究開発推進センターに転職いたしました。そこでは、全学教育および工学部電気電子工学専攻の教育および医用画像処理研究に携わって参りました。御科においては、CKプロジェクト専任として研究等に從事させていただきました。

俗に、「転石苔を得ず」と申します。この言葉には良悪正反対の意味が込められています（苔に良悪があります）。良い意味は、転がることにより悪い苔（悪習、融通の利かない体質など）が身に付かないということです。悪い意味は、転がることにより良い苔（習得に時間がかかる技術や知識・人脈など）が身につかないということになります。私自身は良い意味を意識して転がってきたつもりです。しかしながら、良い苔を身につけてきたつもりでも新たな場所では自分に足りない部分を明らかに意識させられるものであり、悪い方のこの言葉の意味も深く理解しなければならないと反省させられること暫しであります（これは転石の良い効果と考えることもできます）。

御科を退任後は、荒神橋を渡り、京都府立医科大学大学院医学研究科放射線診断治療学先端的磁気共鳴画像研究講座に着任しております。これまでとはまた違うカルチャーの中に身を置き、良い苔をびっしりと生やすよう心掛け、微力ではありますが医科学の発展、教育・研究の進展に寄与できるよう尽力する所存です。

最後に鴨川の対岸より、御科の益々の発展を祈念申し上げます。大変お世話になりました。



## 退任のご挨拶

元安寧の都市ユニット 特定准教授 三谷 智子

平成27年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻安寧の都市ユニットを退職いたしました。

京都大学の工学研究科で博士課程前期を、医学研究科で博士課程後期を過ごさせていただき、その後の研究員を経て、数年間の京都府立医大への転出があったものの、私の人生の中で「京都大学」に所属させて頂いた時間が最も長く、私という人間形成の「生家」であったと感謝しております。研究者としてのアイデンティティの形成を京都大学でさせて頂きました。京都大学のアカデミズムの場で、さまざまな分野の素晴らしい先生方と多くを語り、時間を共有

させていただいたことの有難さをしみじみ感じております。

新任地である岐阜医療科学大学には、保健科学部看護学科成人看護領域教授として赴任しております。大阪大学で看護師の資格をとってはいるものの、ふらふらと「独り学際」状態でさまざまな分野を渡り歩き、振り出しに戻って、一から勉強の毎日です。しかし、ここでも京都大学で培われた経験を、日々の学生の教育や研究に活かしたいと思っております。

在職中は、安寧の都市ユニットの同僚の先生方のみならず、工学研究科、医学研究科の先生方をはじめ、事務のみなさまにも大変お世話になりました。心より感謝いたしております。皆様の、益々のご繁栄とご健康を祈念いたします。

## 退職のご挨拶

元安寧の都市ユニット 特定准教授 小山 真紀

平成 27 年 3 月末に京都大学大学院工学研究科・医学研究科安寧の都市ユニットが終了し、地球環境学堂に異動いたしました。平成 27 年 6 月 1 日付けで岐阜大学流域圏科学研究センター（清流の国ぎふ 防災・減災センター 兼任）に赴任することとなりました。

平成 22 年 4 月に安寧の都市ユニットのスタッフとして工学研究科に着任してから 5 年 2 ヶ月（そのうち平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月まで人間健康科学系にお世話になりました）。本当に、長いようで短い時間であったと感じます。ユニットは医工融合・連携を目指すという点、社会人と大学院生が同じ場で学ぶという



点から、研究的にも教育的にも大変チャレンジングなプロジェクトであり、それ故に、困難も喜びも、全方位的に大変多くの経験をさせていただく機会を頂き、得がたい経験をさせていただいたと感じております。また、同時に本当にいろんな人との出会い、協働の機会に恵まれた期間でもありました。

一方で、5 年という時間は、いろいろな種をまき、それぞれ芽が出たり出なかったり、育ったり育たなかったりと、正直なところ、やっといくつか動き始められそう。という、物足りない長さでもありました。その点で、ここで京都を離れるのはとても残念な思いがあります。しかし、形になってきた研究や取り組みは異動によって終わるものではなく、今後も継続していくものでありますので、これは新天地での新しい出会いと京都でのつながりをさらに紡ぐ機会であると考え、夢（妄想？）が膨らむ毎日です。これからも、得られたチャンスをいつか成果に繋げられるよう、精進して参りたいと思います。

これまで、本当にお世話になりました。居所としては京都を離れますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

元安寧の都市ユニット 特定研究員 今村 行雄

2015 年 3 月末日をもちまして、京都大学医学研究科安寧の都市ユニット特定研究員を退職いたしました。京都大学には、大学院生時代のころを含めるとトータルで 14 年間という長きにわたりお世話になりました。とても縁の深い大学だと思っています。安寧の都市ユニットでは、最先端の研究を社会に還元し、社会人教育、研究指導を行うという大変ユニークな活動に従事しました。私自身は工学の出身で医学研究科に進んだということもあり、それまでは幅の広い研究分野を経験してきたと思っていましたが、ユニットでは同じ研究分野の人が誰一人としていないという

状況で教育活動を行うという機会を与えていただきました。異分野の研究融合の重要性がますます高まる中、貴重な体験をさせていただき大変感謝しております。

4月からは、理化学研究所生命システム研究センター（大阪）でお世話になっております。また、京都大学でも引き続き客員研究員として共同研究を続けていく機会をいただいております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、人間健康科学科職員の皆様のご健康とますますのご発展を祈念しております。

## 退職のご挨拶

元安寧の都市ユニット 特定研究員 村上 由希

平成27年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻安寧の都市ユニットを退職致しました。京都大学では、平成21年11月から約5年ちょっとお世話になりました。退職時には、お世話になった先生方をはじめ、職員の皆様にしちんとご挨拶できず、申し訳ありませんでした。この場を借りて、心からお礼を申し上げたいと思います。

退職の際に、ある職員の方から、「いつも元気に構内を掛け回っていた」と言われました。ふと思い返してみると、京都大学に在職していた時はいつもばたばたと過ごしていたなあと思いました。初めての京都での生活、出産、子育て、また工学部との連携教育とはじめて尽くし中で、駆け抜けていった5年間でした。しかし京都大学で多くのことを経験させて頂き、たくさんのことを学び、私自身を大きく成長させて頂いたと思います。このような機会を与えて頂き、心から感謝申し上げます。

最後になりますが、皆様のますますのご健勝とご発展を心からお祈り申し上げ、退職の挨拶とさせて頂きたいと思っております。本当にありがとうございました。

## 着任のご挨拶

看護科学コース 教授 天谷真奈美

2015年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻看護科学コース臨床看護学講座精神看護学分野 教授を拝命いたしました。本誌をお借りして、着任のご挨拶を申し上げます。

私は、千葉大学看護学部を卒業後、精神科救急病院において精神障がい者の早期退院・地域移行定着支援に携わり、その後はソニー株式会社健康管理室に異動し精神障がい者の復職支援や社員のこころの健康づくり・生活習慣病予防のためのストレスマネジメント教育などに携わってきました。これらの経験から、精神疾患に罹患してからの社会的な損失の大きさを実感し、心の危機的状態から発症することなく軌道修正する支援プログラム開発の重要性を認識し、千葉大学大学院看護学研究科博士課程に進学し、研究を行ってきました。

その後は国立大学で教鞭をとるようになりましたが、前所属の国立看護大学校は厚生労働省の省庁大学校でしたので、文部科学省管轄の大学とは設立の趣旨も運営も異なり、雰囲気はずいぶん違いました。国の医療政策の推進を念頭において、高度先駆的な課題または民間では対応困難な課題を国が行なうという観点から、教育研究が推奨されてきました。私も精神看護学の立場から、地域住民と精神障がい者の協働活動、社会的ひきこもりの実態、自殺予防対策事業、東日本大震災での心のケアなど、その当時に社会で必要とされる心のケアで十分に解明できていない課題に、様々な職種や関係者と連携して実践しつつ調査研究を実施し、その成果を教育に反映してきました。すなわち国民の健康生活の向上には有効な政策・制度設計が必要で、それには高度先進的な研究成果が欠かせませんでした。

さて、縁あって現職に着任し早2か月過ぎました。先生方や事務職員の方々の親切で温かなご支援をいただき、好奇心探求心にあふれる学生から刺激を受け、楽しくお仕事させていただいております。毎日が発見の連続です。そして東山や鴨川などの景観の素晴らしさや京都の食べ物の美味しさもエネルギーを与えてくれます。

京都大学での豊かな刺激を受け、これまで培ってきた臨床・研究・教育をもとに、より優れた研究手法や研究交流を取り入れて、人間健康科学系専攻の発展に微力ながら貢献していく所存です。また、日本はもとより国際社会をリードし、活躍する人材育成に取り組んでいきます。今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

看護科学コース 講師 西山 知佳

平成26年6月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 臨床看護学講座 クリティカルケア看護学分野に着任いたしました。以前は、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 薬剤疫学分野におり学内異動をしてきました。学内とはいえ、環境が変わり戸惑うことが多くありますが、専攻内の先生方や事務の方々からの多くのサポートを受け、楽しく勤務させていただいておりますこと、深謝しております。

滋賀医科大学医学部看護学科を卒業後、大津赤十字病院の消化器外科病棟で看護師として勤務をしておりました。毎日膨大に蓄積されていく患者データ、「このデータを元に患者さんへよりよいケアを行うには、この数字（データ）をどう扱ったらいいんだろう？」という疑問を抱きました。それを解決する手段を探していた時に見つけたのが「疫学」でした。「この学問を学んで臨床に還元したい！」と思い、当時若かった私は、勢い余って職場に「大学院に行きたいので仕事を辞めます！」と言ってしまいました。

無事に京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専門職学位課程に入学してからは、心臓突然死（病院外心停止）を研究テーマに、心肺蘇生教育に関する疫学研究を行い、同時に一般市民に心肺蘇生法を指導しながら、プレホスピタルケアを含む救急医療の改善にも取り組んできました。

学位取得後は、京都府立医科大学医学部看護学科 看護学講座 健康回復看護学で教育に携わりました。その後、「世界一位の救命都市」と言われ救急システムや蘇生科学の研究をリードしているシアトルに行き、University of

Washington Harborview Center for Prehospital Emergency Care で Research Fellow として蘇生に関する研究を行っていました。

私が、一般市民を対象にした心肺蘇生教育にこだわっている理由は、心停止の多くは病院の外で発症し、いかに高度な二次救命処置が実施されたとしても、その前に一次救命処置が行われていなければ良好な結果が得られないためです。倒れた人のそばにいた一般市民によって心肺蘇生が行われ、その命が病院まで繋がれないと、心停止患者を救命することができません。看護科学コースはもちろんのこと、人間健康科学系専攻の学生、京都大学の学生に心肺蘇生法のスキルを身につけてもらうだけでなく、同時にいのちの尊さを考える教育、心臓突然死や心肺蘇生法教育に関する疫学研究を行っていきたいと思っています。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 就任のご挨拶

看護科学コース 助教 佐藤 隆平

2014年11月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 臨床看護学講座クリティカルケア看護学分野の助教に着任いたしましたので、皆様にご挨拶申し上げます。私は初めて東京より西に住むこととなりましたが、京都の紅葉、雪景色、鴨川の桜などの美しさにふれながら京都での生活を楽しんでおります。

さて、私は日本医科大学付属病院高度救命救急センターで看護師としてのスタートを切られていただき、7年間臨床経験を積みました。同センターは、重症外傷、脳血管障害、広範囲熱傷、急性中毒、急性腹症、心肺停止など様々な患者を受け入れ、専属の医師（約40名）と看護師（約120名）が治療および看護にあたり、高い救命率を誇る施設として全国的に知られています。その中で、私は施設内で看護師としての活動することに加え、東京DMATとして災害現場で活動させていただきました。日本医科大学付属病院を退職したのち、昭和大学大学院の宮川哲夫教授（アジア・太平洋呼吸ケア学会理事）のもと呼吸に関する研究（挿管後24時間の体位変換に着目した人工呼吸器関連肺炎発症に対する影響因子の検討）を行い修士号取得後、東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻機能医科学講座内部障害学分野 上月正博教授の教室で、東邦大学医学部リハビリテーション医学研究室（前 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻機能医科学講座内部障害学分野）海老原覚教授等の教えをいただき、咳嗽に関連する研究課題に挑戦させていただきました。具体的には、咳衝動の特性の総合的研究、北京咳解明のための北京滞在中の咳反射感受性および肺機能の検討、In vivo 分子イメージングによる肺アミロイドーシス新規診断法の確立などでございます。着任後は、周囲の先生方より多くのご指導ご支援をいただき、呼吸器内科学の先生方と共同し咳嗽の研究を継続させていただいております。さらに、当講座の先生方や初期診療・救急医学分野の先生方にもご支援いただきDMAT隊員としても活動できるようにご配慮いただいております。

着任後の毎日、世界をリードする京都大学で働かせていただけていることに喜びを感じております。私は教育に携わるのは初めてですが、ひとり一人の学生を尊重し、学生が成長する過程に携われることにやりがいを感じながら熱意をもって接していきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 就任のご挨拶

看護科学コース 助教 二宮 早苗

平成 26 年 10 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻看護科学コース生態環境看護学講座の助教として着任いたしました二宮早苗と申します。本誌をお借りいたしまして、着任のご挨拶をさせていただきます。

私は、京都大学医療技術短期大学部看護学科を卒業後、京都大学医学部附属病院の消化器外科病棟に看護師として勤務した後、京都府赤十字血液センターにて成分採血の業務に携わってまいりました。その間、患者さんや献血ボランティアの方々など様々な背景や考えを持つ人々と関わりを通して、多くのことを学ばせていただきました。その後、滋賀医科大学医学系研究科修士課程に進学し、画像評価を用いた女性の排泄障害に関する研究に取り組み始めました。これまでの臨床経験とは全く異なった内容ではありましたが、女性の排泄障害は生命に直結しないことからこれまで明らかになっていないことも多く、とても興味深く新鮮な気持ちで研究に取り組んでまいりました。修士課程在学中にさらに研究を続けたいとの思いが強まり、続いて神戸大学大学院保健学研究科博士課程後期課程に進学いたしました。その間より、女性の排泄障害に関連して骨盤底機能の評価や尿失禁改善に向けたケアの開発等の研究も進め、現在に至っております。これからも対象となる人々の視点からそのニーズを捉え、その健康や生活の質の向上に貢献していきたいと考えています。

また、博士課程在学中の平成 23 年 4 月より、京都光華女子大学看護学科開設に伴い基礎看護学領域の助教として着任し教育に携わってまいりました。学生の教育に携わるのは初めてでしたが、多くの先生方にご指導をいただきながら、学生の学びを自身の評価として捉え、学生一人一人に丁寧に向き合う努力をしてまいりました。教育に携わるようになって、改めて自身が受けた教育を振り返ってみると、在学中の学びが今日の看護観の基盤となっていることに気づき、教育の責任の重さを感じるようになりました。本学に着任した後も、前任校で学んだことを活かしながら、先生方や学生から多くの刺激を受け新たな気持ちで学ばせていただいております。初年時から行われる基礎看護学は、学生にとって看護の基盤を築いていく大切な時期であると思います。看護師が患者さんのために自然と行っていることを基礎知識の少ない学生に伝えることは非常に難しいことですが、学生には手順や知識をただ伝えるのではなく、学生が主体的に考え、理解し、自分のものとして発展させていく力を引き出していくことが大切だと考えています。1 回生を対象とした生活援助技術では、患者さんが決して特別な存在ではなく、日常生活の延長線上に療養生活があることを理解し、それを支えるための看護師の役割について伝えていきたいと思っています。教育・研究ともにまだまだ未熟ではございますが、私が学生であった頃と同じ学舎で仕事をさせていただける境遇に感謝しながら、精一杯励んでいきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 就任のご挨拶

検査技術科学コース 助教 森瀬 譲二

平成 27 年 4 月 1 日付けで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の助教に着任致しましたので、本誌をお借りしてご挨拶を申し上げます。私は京都大学医学部保健学科 2 期生として卒業、次いで人間健康科学系専攻の修士課程と博士後期課程を修了した後、同専攻の基礎検査展開学分野の研究員として 1 年経験し現在に至ります。これらの通りこれまでの学業および研究経歴は全て本学にて得たもので、この 10 年間で学んだ、経験したものがなければ今の私はありません。その期間指導して頂いた本学の先生方、さらに私がこれまでに会った研究室メンバーや共同研究先の方々にも、感謝の言葉が尽きません。

私にはアカデミックの道に進む契機となった出来事が 2 つあります。元々本学に入学志望した理由としては、臨床検査という診断医療の中核を担う分野を通じて医療を総合的に学びたい思いからでした。しかし現実問題として、学部生時代にはどのような進路に行けるのか、病院や一般企業へ就職するのか、あるいは進学するのか、自分の中で曖昧で悩み過ごす日々でした。ただ学部 4 回生時に研究室配属にて基礎検査展開学分野の生化学研究室に所属したこと

が、私の一つ目の転機となりました。そこで私は自分自身の力で誰も知らない現象を明らかにしていく楽しさ、そういった研究への魅力に惹きつけられました。一方そこには単なる研究への魅力だけでなく、研究室メンバーや他大学との共同研究といった、様々なコミュニケーションを行いながら研究を発展させていける面白さも新たに見出しました。私の場合博士後期課程にて、新学術領域「神経糖鎖生物学」へ研究参加したことがもう一つの契機であり、多くの他大学研究グループとのセッションを行う中で研究に対するアプローチやアイデアの構築といった研究力を学べたと共に、研究に思い悩む方々と一緒に新たな発見を導きだしていける面白さに気がきました。そのような学生として過ごしてきたこの学び舎で、次は本専攻の教員として指導する立場になったことに非常に感慨深く思うと同時に、私の様々な経験を学生に還元できるチャンスだと感じております。一人でも多くの学生に、本専攻で学ぶことができ、良かったと思ってもらえるように、肩を並べて学び合う仲間や出会う人々の縁の大切を感じてもらえるように、微力ながら全力で頑張りたいと思います。

教員としての経験はこれまでにありませんが、自分にできる精一杯のことをやっていきたいと思っておりますので、皆様何卒よろしくお願い致します。



## 就任のご挨拶

検査技術科学コース (ImPACT) 特定准教授 山川 誠

平成 27 年 4 月 1 日付けで、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻検査技術科学コース情報理工医療学講座の特定准教授として着任いたしました山川誠と申します。本紙をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は、2002 年に筑波大学大学院工学研究科知能機能工学専攻を修了し、その後、筑波大学大学院システム情報工学研究科の助手、講師を経て、2008 年より京都大学・キヤノン協働研究プロジェクト (CK プロジェクト) の特定准教授 (工学研究科) として京都大学に移ってまいりました。その後、同プロジェクトの特定准教授 (先端医工学研究ユニット) を経て、この度、革新的研究開発推進プログラム (ImPACT プログラム) の特定准教授として人間健康科学系専攻でお世話になることになりました。

私の研究内容としては、学生のときから続けている超音波を用いた組織粘弾性イメージングに関する研究を主に行っており、手法の開発から臨床での評価のために実際に病院で計測をしたり、超音波機器メーカーと共同でシステムの開発を行い組織弾性イメージング装置の商品化を実現したりと基礎から応用まで幅広く携わっております。また、CK プロジェクトでは組織の弾性だけでなく粘性も含めた組織の高機能性状イメージングに関する研究や光音響効果を利用した光超音波イメージングに関する研究を行ってまいりました。

今後は、光超音波イメージングの現状の課題を克服し、現在、応用を考えている乳癌診断に有用なシステムを研究・開発するとともに多くの分野での臨床応用に結び付けていきたいと考えております。また、教育の面では学生指導を通じて医用工学の分野で活躍できる人材を育てられるよう努力していきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 着任のご挨拶

検査技術科学コース (ImPACT) 特定助教 近藤 健悟

平成 27 年 4 月 1 日付にて検査技術科学コース情報理工医療学講座の特定助教に着任いたしました近藤健悟と申します。

私は、筑波大学第三学群情報学類を卒業後、同大学大学院システム情報工学研究科に進学し、非侵襲に生体内の情報を画像化する技術に感銘を受け医用生体工学を学びました。大学院では、超音波診断装置の高機能化に関する研究を行い、平成 19 年に博士前期課程、平成 22 年に博士後期課程を修了いたしました。

平成 22 年 4 月 1 日より CK プロジェクトの特定研究員として京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻に着任することとなり、以来情報理工医療学講座の先生方をはじめ、人間健康科学系専攻の先生方、事務職員の方々には大変お世話になっております。本専攻で研究を行うようになり工学的な観点だけではなく、臨床にどのように使うことができるかを強く意識するようになりました。また、これまでの超音波の高機能化、画質向上に加えて、光超音波イメージングという全く新しいモダリティの開発に関わる機会に恵まれました。平成 25 年 1 月 1 日からは健康長寿社会の総合医療開発ユニットの特定助教としてリーディングプログラムに携わらせていただきました。

この度は、ImPACT プログラム「イノベティブな可視化技術による新成長産業の創出」の特定教員として着任いたしました。様々な臨床の場で利用可能な生体イメージング法を開発し、人間健康科学の発展につながるよう尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

寄附講座 (発達障害支援医学講座) 特定准教授 佐藤 弥

平成 26 年 10 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻発達障害支援医学講座の特定准教授として着任いたしました佐藤弥と申します。よろしくお願いいたします。

私は、表情を通じた感情コミュニケーションを実現する心のメカニズムを研究しています。特に、表情を見た瞬間にすばやく無意識に起こる過程を調べています。こうした心のはたらきは、太古にはおそらくヒトの生存を大いに助け、現代でも日々の社会生活を左右する重要なものです。しかし、意識的には理解や統制のできない不思議なものです。また自閉症スペクトラム障害などいくつかの精神疾患で障害が示されることから、そのメカニズムの理解が精神疾患の理解および療育に役立つと期待できます。

このテーマについて、心理学と神経科学の方法論を組み合わせアプローチしています。心理学実験により、行動レベルの現象を明らかにして、さらに入力 (刺激) と出力 (行動) の関係から情報処理過程をモデル化します。そして神経科学実験で、情報処理過程を脳領域という物質的基盤に対応づけ、心理神経メカニズムとして理解することを目指します。特にすばやい処理に関心があることから、空間解像度に加えて時間解像度も高く神経活動を計測することを目指しており、深部脳波の計測・解析や、機能的磁気共鳴画像と頭部上脳磁図の統合的解析などに取り組んでいます。

心理学・神経科学研究の応用として特に、自閉症スペクトラム障害の研究に取り組んでいます。こうした研究では、当事者の方に説明を提供して感謝をされることもあり、基礎研究とはまた違ったやりがいを感じます。研究を楽しく続けながら表情コミュニケーションの心理神経メカニズムについて理解を深め、少しでも世の中に役立つ知見が報告できればと思います。





## 就任のご挨拶

寄附講座（発達障害支援医学講座） 特定助教 義村さや香

2014年10月1日付で、発達障害支援医学講座に着任いたしました義村さや香と申します。就任して半年以上過ぎてしまいましたが、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、京都大学医学部医学科を卒業し、京都大学医学部附属病院精神科神経科での研修を経て、公立豊岡病院精神科で地域医療に取り組み、精神科医として研鑽を積んで参りました。医師になった当初から、サブスペシャリティとして児童精神科領域を修得したいと考えていたのですが、その頃に出会った印象深い患者さんには自閉症スペクトラム障害を持つ方が多く、特に自閉症スペクトラム障害に興味を持つようになりました。その後、京都大学大学院医学研究科博士課に入学し、以降、認知心理学的手法を用いて自閉症スペクトラム障害の研究を続けています。また、着任前は京都家庭裁判所で医務室技官として2年半ほど勤務し、発達障害に関連した少年司法領域の問題にも取り組んでおりました。

自閉症スペクトラム障害は、少なく見積もって2%以上という高い罹病率を有し、自閉症症状だけでなく、知的水準、併存/合併症、性別、生育環境などにも修飾を受けた多彩な臨床像、社会・生活上の困難を示します。そのため、医療だけでなく教育、行政、司法といった幅広い分野における継続的な支援が必要ですが、その支援がどうあるべきかの指針を示すには、まだまだエビデンスが不足している段階にあります。また、近年、世間の人々の自閉症スペクトラム障害への関心や認識は広がりつつあるとされていますが、有病率の高さと幅広い分野における理解・支援が必要とされる割に、啓発は十分ではない印象があります。

今後は、これまでの臨床経験や医務室技官としての経験も活かしながら、発達障害の認知特性や神経基盤に関する研究・知見に基づいた介入や啓発・臨床活動を進めて行きたいと考えております。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 就任のご挨拶

寄附講座（発達障害支援医学講座） 特定助教 魚野 翔太

昨年10月1日付で、医学研究科人間健康科学系専攻発達障害支援医学講座の特定助教として着任しましたので皆様にご挨拶申し上げます。京都大学には教育学研究科の大学院生だった頃を含めてすでに10年近くお世話になっています。教員としてのキャリアを優れた教育・研究環境を持つこの大学でスタートできたことを大変光栄に存じます。

私はこれまで医学研究科の先生方とともに、対人コミュニケーションに問題を抱える自閉症スペクトラム障害の方を対象として、障害の心理学的・神経学的な基盤を探る研究を行ってきました。自閉症スペクトラム障害を持つ人たちは特に集団への適応を苦手とすることが多く、教育機関や企業において、本人と周りの人々に対して支援を行うことや障害について正確な情報を得ることが必要であるという認識が高まりつつあります。そのような要請を受けて、本寄附講座も自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害の病理学的な理解を進展させることに加え、一般への知識の普及をはかることも目的としています。その実践の一つとして、本学では今年度後期から発達障害論という授業が全学共通科目として開講されます。自閉症スペクトラム障害は全人口の数%の人が該当し、診断基準を満たさない場合でもその特徴を持っている人たちは相当な数となるため、受講者自身や周りの友人がそうであるということは

十分にありうることでしょう。この授業ではこれまで行われてきた研究をもとに、平均的な人たちには思い至らないようなところで困っている人たちが、なぜそのような問題を抱えてしまうに至るのかについて伝えられればと思います。私は発達障害を持つ人たちにとって生きやすい社会とは他の人たちにとっても同じように生きやすい社会なのではないかと考えています。もし現代の日本で多くの人が息苦しさを感じて生きているのであれば、平均的な人間像に基づいたこれまでの規範にほころびが生じているのかもしれませんが、3年間とそれほど長い期間ではありませんが、発達障害の基礎研究を行うことを通して、多様な人が存在するという事実に基づいたこれからの社会のありかたについても考えていきたいと思えます。皆様には、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 京都大学 平成 27 年度全新生 3000 人への救命講習会の報告

教務・教育委員会委員長 黒木 裕士  
看護科学コース・講師 西山 知佳

**新入生オリエンテーションとしては初！  
3000 人への救命講習会を無事に成功させました！**

平成 27 年 4 月 2 日（木）の午後、および 4 月 6 日の（月）の午前と午後に、学部の新入生に対する学生支援機構ガイダンスが計 3 回行われ、そのガイダンスの中で、初めて新入生 3,015 人全員を対象とした救命講習会を実施しました。医学研究科人間健康科学系専攻の教員を中心に、医学部附属病院救急部、国際高等教育院などのべ 150 人以上の教員がサポートスタッフとして実習を行いました。

この講習会では、新入生全員が、心肺蘇生と AED（自動体外式除細動器）操作を体験しながら救命救急の意義と具体的な方法を学びました。新入生たちが、実際に心肺停止に遭遇したときに躊躇なく救命行動ができる人になってほしいと願って「いのちの教育」の講習が実現しました。

3000 人もの新入生を対象に一斉に心肺蘇生法を教育するという取組みは前例がなく、今回が初の試みだと思います。将来の社会を主導することが期待される京都大学の新入生に対して、心肺蘇生法や AED の使い方を教え、「いのち」の尊さを感じてもらい講習会を実施したことは、高等教育機関としての社会的責任の一端を果たしたと思います。今後この種の取組みが国内外で社会に広く普及することを期待します。本専攻では、授業時間を中心に、種々の機会に継続的に救命講習を実施していく予定をしています。

## 第 27 回健康科学市民公開講座開催報告

検査技術科学コース 岡 昌吾

平成 26 年 11 月 8 日（土）に第 27 回健康科学市民公開講座を開催いたしました。今回取り上げたテーマは「健康に生きるために。検査と薬に関する進歩と常識（知識）」です。病院で行われている検査は、病気の程度や健康状態を知るために重要です。また、病院や薬局で渡される薬は病気を治すために無くしてはならないものです。これら検査と薬に関する最新の情報を得ていただくことを目的として企画いたしました。

当日は天候にも恵まれ、100 名程度の方にご参加いただきました。齋藤邦明教授の開会挨拶に引き続き、4 人の講師の先生にご講演いただきました。

第 1 講では、本学医学部附属病院検査部技師長の志賀修一先生から「検査とは！マニュアル、自走化。国際認証」と題してご講演いただきました。実際に病院で行われている検査にはどのようなものがあるか、また、病院で行われている検査の歴史を振り返りながら、これからの検査がどのような時代になって行くのかについて解説していただきました。

第 2 講では、本専攻の藤井康友先生から「超音波検査の進歩 安価でからだにやさしい画像検査」と題してご講演いただきました。そもそも超音波とは何か、超音波検査がどのようにして医療に貢献しているのか、その有用性や特徴を解説していただき、超音波がこれからの医療にどのように貢献して行くかの将来像についてのお話がありました。

第 3 講では、本学医学部附属病院薬剤部准教授／副薬剤部長の中川貴之先生から「新しい薬ができるまでの道のり」と題してご講演いただきました。薬の歴史から始まり、現在の薬ができるまでには時間と労力、お金がかかることを詳しく解説いただきました。また、薬が販売された後も市販後調査が続くことや、後発（ジェネリック）医薬品についてもご説明いただきました。

第 4 講では、長野県薬剤師会常務理事の高田弘子先生から「薬と上手につきあうために」と題してご講演いただきました。事前に準備していただいていた「薬の常識！ウソ？ホント？」について参加者の皆様に考えていただいた後、薬の正しい飲み方、飲み忘れた時の対処法、お薬手帳の重要性等の詳しい説明がありました。この説明を聞くことにより、最初に考えていただいた「薬の常識！ウソ？ホント？」が参加者の皆様に自然と理解できるように話を進めていただきました。

講演終了後、参加者の皆様から記入いただいた質問について講師の先生から答えていただきました。参加者の皆様から沢山の質問をいただき、検査や薬についての関心の高さが感じられました。

今回の健康科学市民公開講座のアンケートについては「大変よかった」37、「よかった」20、「ふつう」1、という集計結果でした。個別のコメントとしては「先生が話された内容が配布資料にて説明されているのでよく判りました」、「健康に関してもっていた疑問がとけました」、「日常生活に密着したテーマでよかったです」など好意的なご意見をいただきました。次回以降の希望テーマについても沢山のご意見をいただきましたので参考資料として次期学術委員長に引き継ぎたいと思います。



## 2014 年度オープンキャンパス

2014 年度オープンキャンパスは 2014 年 8 月 8 日（金）に前年度と同様、A 時間帯、B 時間帯の 2 回にわたって行われました（表 1）。全体説明会では、椎名学科長の挨拶のあと、各専攻（看護、検査、理学、作業）の紹介が各コース担当教員からされました。その後、各専攻に分かれて、実習等の体験、研究室との施設見学、学生個別相談が行われ、アンケート調査からも、いずれも好評でした。参加者は表 2 に示しますが、A 時間帯は女子 176 名、男子 42 名の計 218 名、B 時間帯は女子 134 名、男子 42 名の計 176 名が参加しました。専攻別では看護 136 名、検査 86 名、理学 88 名、作業 14 名でした。また、都道府県別では京都 30 名、大阪 57 名を始めとして東北や九州からも参加者がありました。2015 年度は 8 月 6 日（木）に行われる予定で、今後の京都大学医学部人間健康科学科に多くのやる気のある学生のリクルートのために、重要なイベントであると思われます。

表 1 オープンキャンパス 2014 スケジュール

A 時間帯（12:30～14:30）		B 時間帯（15:00～17:00）	
12:00	全体説明会受付開始 ※全体説明会会場：第 9 講義室	14:30	全体説明会受付開始 ※全体説明会会場：第 9 講義室
12:30	開会 学科長あいさつ	15:00	開会 学科長あいさつ
12:35	各専攻の紹介 (看護・検査・理学・作業)	15:05	各専攻の紹介 (看護・検査・理学・作業)
13:00	各専攻説明会 ○看護学専攻（第 5 講義室） ○検査技術科学専攻（第 8 講義室） ○理学療法学専攻（第 7 講義室） ○作業療法学専攻（第 6 講義室） ★実習等の体験 研究室等の施設見学 学生個別相談など	15:30	各専攻説明会 ○看護学専攻（第 5 講義室） ○検査技術科学専攻（第 8 講義室） ○理学療法学専攻（第 7 講義室） ○作業療法学専攻（第 6 講義室） ★実習等の体験 研究室等の施設見学 学生個別相談など
14:30	終了	17:00	終了

表 2 オープンキャンパス 2014 参加者状況

### ●参加者数

	参加者数		高 1		高 2		高 3		既卒・その他	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
A 時間帯	176	42	77	21	71	14	22	5	6	2
B 時間帯	134	42	54	19	52	15	23	3	5	5
計	310	84	131	40	123	29	45	8	11	7
	394		171		152		53		18	

※既卒・その他（A 時間帯）＝既卒女子 4・男子 2、中学生女子 1、不明女子 1

※既卒・その他（B 時間帯）＝既卒女子 2・男子 5、中学生女子 2、不明女子 1

### ●専攻別

	看護		検査		理学		作業		未定	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
A 時間帯	79	2	40	12	25	19	8	1	24	8
計	81		52		44		9		32	
	看護		検査		理学		作業		未定	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
B 時間帯	54	1	27	7	24	20	4	1	25	13
計	55		34		44		5		38	

### ●参加者の都道府県別人数【※A・B時間帯合わせた人数】

北海道	2	青森	0	秋田	0	岩手	0	宮城	0	山形	0
福島	0	茨城	1	千葉	2	栃木	1	群馬	0	埼玉	2
東京	12	神奈川	3	山梨	0	新潟	3	長野	20	静岡	5
愛知	11	岐阜	3	三重	8	富山	5	石川	6	福井	23
滋賀	23	京都	30	大阪	57	兵庫	59	奈良	15	和歌山	11
徳島	12	香川	7	愛媛	8	高知	1	岡山	6	広島	24
鳥取	3	島根	4	山口	5	福岡	9	大分	3	佐賀	0
長崎	4	熊本	1	宮崎	3	鹿児島	2	沖縄	0		

# 人間健康科学系専攻から博士が6名誕生しました

## 博士授与者と論文題目

西村 亜希子

論文題目：Color record in self-monitoring of blood glucose improves glycemic control by better self-management  
(カラー記録を活用した血糖自己測定は自己管理行動と血糖コントロールの改善に寄与する)

大橋 純子

論文題目：The Effects of Coaching on Salivary Cortisol Stress Marker in Mothers with Young Children, A Randomized Controlled Trial  
(乳幼児を養育する母親に対するコーチングがストレスマーカー、唾液コルチゾールに及ぼす効果：無作為化比較試験)

清水 史恵

論文題目：Role Development of Nurses for Technology-Dependent Children Attending Mainstream Schools in Japan  
(日本の通常学校に通学する医療的ケアを要する子どもをケアする学校看護師の役割の発展)

山口 未久

論文題目：Becoming a back-up carer: Parenting sons with Duchenne Muscular Dystrophy transitioning into adulthood  
(バックアップケア提供者となること—成人移行期にあるデュシャンヌ型筋ジストロフィーの親の子への関わり)

伊藤 明良

論文題目：Culture temperature affects redifferentiation and cartilaginous extracellular matrix formation in dedifferentiated human chondrocytes  
(培養温度は脱分化したヒト軟骨細胞において再分化と関節軟骨細胞外基質形成に影響を与える)

古谷 槇子

論文題目：Effect of the angle of shoulder flexion on the reach trajectory of children with spastic cerebral palsy.  
(痙直型脳性麻痺児のリーチ軌跡に対する肩関節屈曲角度の影響)

## 博士号を取得して

大橋 純子

私は、京都大学医療技術短期大学部を卒業後、保健師として人々の健康増進活動に取り組んできました。特に、健康管理支援を行う中で、主体的行動変容を促すスキルであるコーチングに興味を持つようになりました。その後、京都大学看護科学コース予防看護学分野の修士課程、博士後期課程に進み、コーチングプログラムの効果、効用に関する研究を行ってきました。研究を通して、主体的健康管理能力がQOLを高めること、そしてコーチング技術の習得によって、セルフコーチング能力が高まり、ストレス反応を軽減できることが明らかになりました。

大学院の5年間では、研究手法に加え、フィールドをお借りする市町村との調整、文部科学省の科学研究費助成金申請書・英文学術論文の作成方法、海外での学会発表など多くの学びをさせていただきました。また、桂研究室が超高齢化地域に設けた「すこやかサロン」へスタッフとして定期的に参加させていただきました。超高齢社会において、地域に何が必要であるか、望ましい地域支援のあり方について考えを深めることができました。

現在は、教育・研究者として歩んでおります。今後も、京都大学で得た学びを活かし、地域社会に貢献できる活動

を行っていきたいと考えております。最後になりましたが、ご指導賜りました桂教授、研究室の皆様にお礼申し上げます。

## 博士課程での日々を振り返って

清水 史恵

私は、他大学の大学院修士課程を修了後、約10年間、3人の子どもの子育てや夫の数年おきの転勤もあり、非常勤の職を転々としながら過ごしていました。その過程で、地域の小中学校で医療的ケアを提供する看護師の職に巡り合いました。「なんて素敵な仕事なんだろう！」と感じ、多くの人に知ってもらいたいと研究に取り組み始めました。研究に取り組む中で、「我流の研究から脱皮し、きちんと研究したい！」と思い、博士課程に進学しました。



博士課程では、指導教員の鈴木真知子先生をはじめ、多くの先生方から、研究に関し、ご指導を頂きました。ありがとうございました。博士課程での研究は、順調には進まず、研究テーマとい

う根底からゆらぎ、研究を継続する意欲を失いそうになることもありました。大学の横断型教育プログラムに参加し、異なる分野について学ぶことで、研究で煮詰まっている頭を切り替えることができました。研究協力者の方々からの手紙や、先生方、大学院生の方々、職場の同僚や夫からの励ましの言葉により、気持ちを立て直し、少しずつですが研究を進展させることができました。また、我が子の存在は大きく、日々の生活の中で、子どもたちから元気をもらうことができました。研究と仕事や子育てが両立できるようにいろいろとご配慮いただいた、鈴木真知子先生、同期の山口未久さん、職場の皆様、また家事や子育てを手伝ってくれた夫や両親にはとても感謝しています。周囲の方々のおかげで、研究に取り組み続けることができ、博士課程を修了できました。

4月から大阪府立箕面支援学校で看護師として実践経験を積ませていただいています。また、梅花女子大学で小児看護学講座の非常勤講師として、学部生の教育にも関わらせていただいています。5月からは、京都大学で客員研究員として、研究させていただくことになりました。子育て、看護の実践、教育、研究のバランスを考慮しつつ、頑張っていきたいと思います。今後とも、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

## 博士号を取得して

山口 未久

私は2010年に修士課程（看護科学コース成育看護学分野）で入学し、博士後期課程修了まで5年間大学院に在籍しました。それまで勤めていた病院では筋ジストロフィーの患者さんと関わることもありましたが。その経験から、「小児期に発症し進行する難病である筋ジス患者さんたちが医療への依存を高めながらも、よりよく大人に成長していくには？」といった漠然とした疑問があり、大学院へ進学しました。そこで大学院の5年間は、成人移行期の筋ジス患者さんと家族を対象として研究を進め、合計約70名の対象者にインタビューを実施し、研究成果を複数の論文にまとめました。

卒後の進路については、いくつかの選択肢があり悩みましたが、これまでに取り組んできた研究成果を現場に返してみることを考えました。この4月からは、在宅生活を支援するNPO法人に所属し、現場の看護師に戻り、成人移行期の筋ジス患者さんにケアを提供しています。さらに、これまでの研究で導き出された理論をもとに、より充実した支援体制が必要だと考えられる患者さんと家族を対象とし、主治医、訪問看護師、十数か所の介護事業所とともに、

アクションリサーチに取り組み始めています。

指導教官の鈴木先生は、何時間でも議論に応じてくださり、院生の研究について日夜考えてくださいました。研究のことで夜中にメールが届くこともありました。厳しくも愛あるご指導に心から感謝しています。また、博士後期課程からは子育てをしながらの院生生活でしたが、男女共同参画推進センターの保育室に子どもを預け、研究時間を確保することができました。大学院の仲間も、大きな励みとなりました。これらの京都大学の環境に感謝しています。

今後も取り組んでみたい研究のアイデアや学んでみたい研究方法がたくさんあり、チャレンジしていくのが楽しみです。時には一看護師であることに立ち返りながら、自分の道を進んでいきたいと思います。



## 博士号を取得して

伊藤 明良

平成 27 年 3 月に人間健康科学の博士号を取得しました伊藤明良と申します。私は国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院にて理学療法士免許を取得後、名古屋市内の病院にて 5 年間勤務しました。その後、本学に学部 3 年次に編入学して参りました。当時、理学療法学しか知らなかった私は、京都大学における多種多様な学問を前にしてとても胸が高まったことを鮮明に記憶しております。特に、当時は iPS 細胞が世に出てきた時期であり、国際的に有名となった山中教授の講義を直に受けたりする中で、自然と分子・細胞生物学や再生医学という分野に興味を抱くようになりました。その中で、理学療法学分野においては生物学的な知見が未だ不十分であり課題となっていること、そして京都大学ではそれに取り組むことができる環境が整っているということに気がきました。修士および博士後期課程ではその気づきを基に、理学療法学と生物学を融合した研究を推進し、いくつかの成果を出すことができました。4 月からはこれをさらに発展させ、リハビリテーション医学と再生医学を融合させた再生リハビリテーションという新しい研究テーマを、京都大学大学院整形外科学の日本学術振興会特別研究員 PD として行っています。

在学中には結婚、長男誕生など多くの転機がありましたが、その度に人生が豊かになっていると実感します。どうしても大学院生は自身の生活を疎かにしがちだと思いますが、これから同じ道を歩まれる皆さんもワークライフバランスを大切にしてほしいと思います。実はその方が研究も進展したりします。

最後になりましたが、研究を指導して下さいました黒木教授をはじめとする先生方、いつも支援してくれた研究室の仲間、両親、そして妻に厚く感謝いたします。



## 博士号を取得して

古谷 槇子

私は大学卒業後、脳性麻痺を伴う子供が多く病院で働いておりました。思ったように機能が改善しない子供たちをどうにかしたいという思いが大学院に進学するきっかけとなりました。

修士課程・博士後期課程の5年間は、脳性麻痺児・者を対象に上肢機能、特にリーチ動作の動作分析を行い、後半は上肢運動を行った時の脳活動の解析も行わせて頂きました。それまで研究とは無縁であった私にとって、大学院は様々な考えを持つ方がいて、最新の知見を得る事ができるとも刺激的で、充実した場所でありました。しかし、一方で研究者の卵としての大学院生活は予想を上回る苦難に見舞われました。英語論文や書物を読むための語

学力、研究に協力してもらえる脳性麻痺児・者のリクルート、研究の組み立て、適切な解析手法や統計学的検定法を選択、英語論文の作成、どれも大変苦労した思い出ばかりです。それを乗り越えて、このたび博士号を取得できたのは、ひとえにいつもの確かなアドバイスでご指導下さった三谷先生、大畑先生や松林先生、医学研究科附属脳機能総合研究センターの先生方、そして様々な場面で支えてくれた研究室の先輩・後輩のおかげです。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

4月からは国立成育医療研究センターでICU専属の理学療法士として臨床と研究に従事させて戴く事になりました。小児の理学療法分野は研究者も少なく、まだまだ分からないことの多い分野です。今後は、これまでの研究を通しての経験や、先生方から学んだ多くのことを活かし、微力ながらも小児理学療法分野の発展へ貢献したいと思っています。





**人間健康科学系専攻・人間健康科学科  
平成 27 年度入学試験結果 及び 平成 26 年度修了・卒業者数**

**平成 27 年度 医学部人間健康科学科入学試験結果**

専攻・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護学専攻	前期	70	167	74	70
検査技術科学専攻	前期	37	104	40	40
理学療法学専攻	前期	18	39	19	19
作業療法学専攻	前期	18	39	20	18
合 計		143	347	153	147

**平成 27 年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）  
入学試験結果**

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】	28 【10】	37[6] 【18[1]】	26[3] 【11[0]】	25[3] 【10[0]】
検査技術科学コース	13	22[0]	21[0]	19[0]
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	4	15[2]	13[2]	13[2]
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	4	10[1]	6[1]	6[1]
合 計	49	84[9]	66[6]	63[6]

[ ]の数は、社会人特別選抜（内数）

**平成 27 年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）  
入学試験結果**

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース	15	18	11	11
検査技術科学コース		7	6	6
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）		8	5	5
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）		2	1	1
合 計	15	35	23	23

## 平成 26 年度 医学部人間健康科学科卒業生数

専 攻	卒 業 者 数
看 護 学 専 攻	62
検 査 技 術 科 学 専 攻	40
理 学 療 法 学 専 攻	16
作 業 療 法 学 専 攻	15
合 計	133

## 平成 26 年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

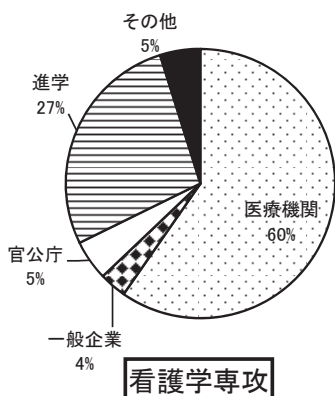
コ ー ス	修 了 者 数
看 護 科 学 コ ー ス 【高度実践助産学系（内数）】	23 【8】
検 査 技 術 科 学 コ ー ス	23
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	12
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	3
合 計	61

## 平成 26 年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

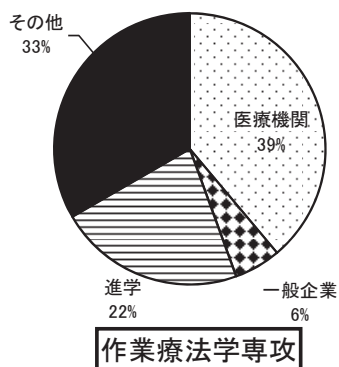
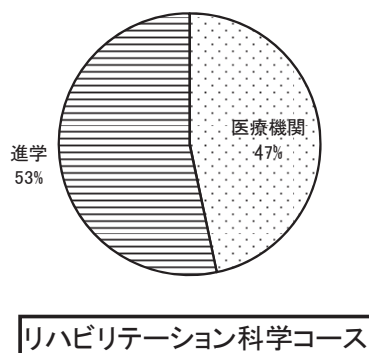
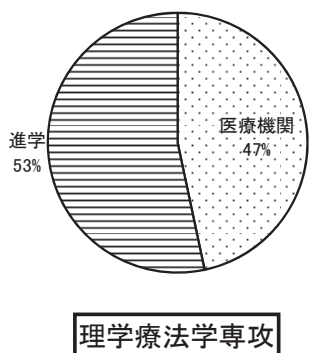
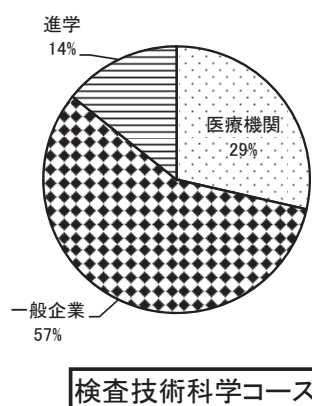
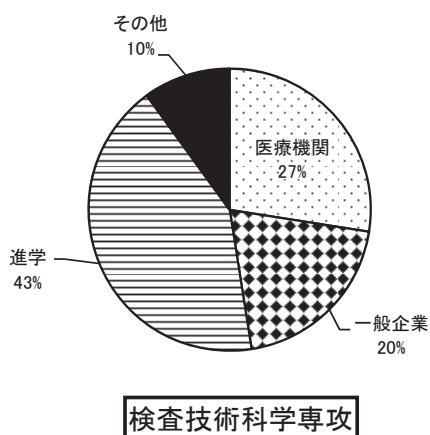
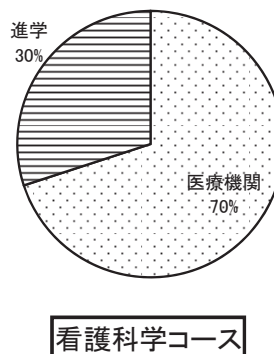
コ ー ス	修 了 者 数
看 護 科 学 コ ー ス	4
検 査 技 術 科 学 コ ー ス	0
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	1
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	1
合 計	6

平成26年度(平成27年3月)卒業・修了生の進路調査結果

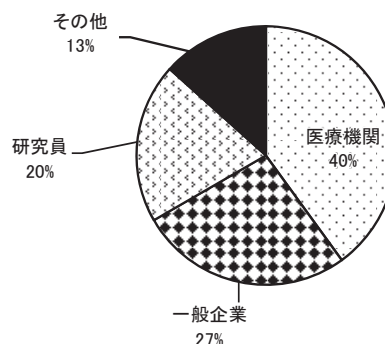
■学部



■大学院(修士)



■大学院(博士:コース全体)



## 人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
平成				
26.6.1	講 師	西山 知佳	看護科学コース	採用（医学研究科特任助教より）
26.10.1	助 教	二宮 早苗	看護科学コース	採用（京都光華女子大学助教より）
26.10.1	特定准教授	佐藤 弥	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	採用（白眉センター特定准教授より）
26.10.1	特定助教	義村 さや香	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	採用（京都家庭裁判所技官より）
26.10.1	特定助教	魚野 翔太	寄附講座 (発達障害支援医学講座)	採用（霊長類研究所教務補佐員より）
26.11.1	助 教	佐藤 隆平	看護科学コース	採用（東北大学大学院生より）
26.12.31	教 授	荒井 秀典	近未来型人間健康科学 融合ユニット	辞職
26.12.31	助 教	千葉 陽子	看護科学コース	辞職
26.12.31	特定准教授	酒井 晃二	検査技術科学コース (CK プロジェクト)	辞職
27.3.31	教 授	野本 慎一	看護科学コース	定年退職
27.3.31	教 授	山根 寛	リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	定年退職
27.3.31	教 授	齋藤 邦明	検査技術科学コース	辞職
27.3.31	助 教	志澤 美保	看護科学コース	辞職
27.3.31	特定准教授	三谷 智子	安寧の都市ユニット	任期満了
27.3.31	特定准教授	小山 真紀	安寧の都市ユニット	任期満了
27.3.31	特定研究員	今村 行雄	安寧の都市ユニット	任期満了
27.3.31	特定研究員	村上 由希	安寧の都市ユニット	任期満了
27.3.31	教務掛員	杉本 由紀	事務部	配置換（工学研究科教務課留学生掛へ）
27.4.1	教 授	天谷 真奈美	看護科学コース	採用（国立看護大学校教授より）
27.4.1	助 教	森瀬 譲二	検査技術科学コース	採用（京都大学研究員より）
27.4.1	特定准教授	山川 誠	検査技術科学コース (ImPACT)	採用(学際融合教育研究センター特定准教授より)
27.4.1	特定助教	近藤 健悟	検査技術科学コース (ImPACT)	採用(学際融合教育研究センター特定助教より)
27.4.1	教務掛主任	中村 大輔	事務部	配置換（経済学研究科教務掛より）

## 日 誌 (H 26.4 ~ H 27.3)

26.4.2	「安寧の都市ユニット」開講式	7.2	五〇会ビアパーティ
4.3	病院協議会	7.3	病院協議会
4.4	修士課程 1 回生ガイダンス		教務・教育委員会
	博士後期課程 1 回生ガイダンス	7.8	安寧の都市ユニット運営協議会
4.7	学部入学式	7.10	医学研究科将来計画検討委員会
	学部新入生ガイダンス		医学研究科会議・医学教授会
	大学院入学式		臨時教授会
	人間・組織改革検討 WG	7.11	全国国立大学法人助産師教育専任教員会議
4.9	執行部会議	7.14	執行部会議
4.10	医学部・医学研究科将来計画検討委員会	7.15	拡大執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会	7.17	リーディング大学院教授会
4.14	医学研究科組織改革 WG		教員会議
4.15	拡大執行部会議		教授会
4.17	医系懇談会	7.23	執行部会議
	リーディング大学院教授会	7.24	医系懇談会
	教員会議・教授会		医学研究科専攻長会議
4.23	執行部会議	8.8	オープンキャンパス
4.24	医学研究科専攻長会議	8.19	人間健康組織改革検討WG
5.1	杉浦地域医療センターシンポジウム	8.22	3 年次編入学試験
	病院協議会	8.25	医学研究科組織改革 WG
	教務・教育委員会	8.26	大学院修士課程入学試験
5.7	執行部会議	9.4	病院協議会
5.8	医学研究科将来計画検討委員会		教務・教育委員会
	医学研究科会議・医学教授会	9.10	執行部会議
5.9	安寧の都市ユニット運営協議会	9.11	臨時教授会
5.13	拡大執行部会議		医学研究科将来計画検討委員会
5.15	教員会議		医学研究科会議
	教授会		医学部教授会
	人間・組織改革検討 WG	9.12	大学院修士課程入学試験合格発表
5.21	執行部会議		3 年次編入学試験合格発表
5.22	医学研究科専攻長会議	9.16	全学教育シンポジウム
5.23	第 5 1 回国立大学臨床検査技師教育協議会		拡大執行部会議
5.24	大学院説明会 [リハビリテーション科学コース (作業)]	9.18	リーディング大学院教授会
5.31	大学院説明会 [検査技術科学コース]		教員会議
	大学院説明会 [看護科学コース]		教授会
6.1	第 7 回国立大学保健医療学系代表者協議会看護分科会	9.19	医学部遺骨返還式
6.2	第 9 回国立大学保健医療学系代表者協議会	9.24	執行部会議
6.5	病院協議会	9.25	医学研究科専攻長会議
6.11	執行部会議	10.2	病院協議会
6.12	医学研究科将来計画検討委員会		教務・教育委員会
	医学研究科会議・医学教授会	10.8	執行部会議
	教務・教育委員会	10.9	医系懇談会
6.13	医学研究科組織改革 WG		医学研究科将来計画検討委員会
6.17	拡大執行部会議		医学研究科会議・医学教授会
6.18	創立記念日	10.14	拡大執行部会議
6.19	教員会議	10.16	リーディング大学院教授会
	教授会		教員会議
6.21	大学院説明会 [リハビリテーション科学コース (理学)]		教授会
6.25	執行部会議	10.17	京大関係病院長協議会定例総会
6.26	医学研究科専攻長会議	10.21	解剖体祭
			安寧の都市ユニット運営協議会
		10.22	執行部会議
		10.23	医学研究科専攻長会議

## 日 誌

11.1	京都大学ホームカミングデイ	27.16	執行部会議
11.5	大学院博士後期課程入学試験		病院協議会
11.6	医学研究科組織改革WG	1.8	将来計画検討委員会
	病院協議会		医学研究科会議・医学教授会
	教務・教育委員会		医学部教授会（臨時）
	五〇会（臨時親睦会）		教務・教育委員会
11.8	第27回健康科学市民公開講座	1.13	拡大執行部会議
11.12	執行部会議	1.15	教員会議
11.13	将来計画検討委員会		教授会
	医学研究科会議・医学教授会	1.17	大学入試センター試験（～18日）
11.18	拡大執行部会議	1.21	執行部会議
11.20	教員会議	1.22	医学研究科専攻長会議
	教授会		医学研究科会議・医学教授会
	11月祭前夜祭	1.29	医系懇談会
11.21	11月祭（～24日）	1.30	五〇会総会
11.26	執行部会議	2.5	病院協議会
11.27	医学研究科専攻長会議	2.10	執行部会議
	医学研究科会議	2.12	将来計画検討委員会
11.28	大学院博士後期課程入学試験合格発表		医学研究科会議・医学教授会
			教務・教育委員会
12.4	臨床実習指導者会議 [リハビリテーション科学コース (理学)]	2.17	拡大執行部会議
	病院協議会	2.19	教員会議
12.5	安寧の都市ユニット運営協議会		教授会
12.9	将来計画検討WG	2.23	医学研究科専攻長会議
12.10	執行部会議		医学研究科会議・医学教授会
12.11	将来計画検討委員会	2.25	学部入学試験（～26日）
	医学研究科会議・医学教授会	2.26	執行部会議
	教務・教育委員会		
12.16	病院西地区消防訓練	3.2	改組カリキュラムWG
	拡大執行部会議	3.5	病院協議会
12.18	教員会議	3.6	安寧の都市ユニット運営協議会
	教授会		教務・教育委員会
12.24	執行部会議	3.9	教授会（臨時）
12.25	医学研究科専攻長会議		医学部教授会
		3.10	学部入学試験合格発表
		3.11	執行部会議
		3.12	医学研究科専攻長会議
			将来計画検討委員会
			医学研究科会議・医学教授会
		3.17	拡大執行部会議
		3.19	人間健康FD講演会
			教員会議・教授会
		3.23	大学院学位授与式
			修士課程・博士後期課程修了を祝う会
		3.24	学部卒業式
			学部学生卒業を祝う会
		3.25	執行部会議
		3.26	医学研究科専攻長会議
			医学教授会

## あしがき

本年も無事に広報をお届けすることができました。人事異動や学位取得者を知って頂くのも大事ですが、本学科を取り巻く組織改革、特色入試など、環境が大きく変わるようなことについても皆様に確実にお伝えしたいと思います。今後もお力添えを頂きますと幸いです。

(山田 重人)

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>